
瞳の中の茜空

びっぐt

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

瞳の中の茜空

【Zコード】

Z7220C

【作者名】

びつぐt

【あらすじ】

海星高校一年の雪村蒼一は内氣でクラスにも馴染めないような暗い生徒だった。趣味は絵を描くこと、絵画部に入っているがそこでも友達はない。そんな少年の世界がある少女との出会いでかかる。少し悲しく、そして少し切ない。夕焼けが運ぶlovesto

ry

第一話・出発式（前書き）

小説を書くのは、この作品が初めてですが一生懸命頑張ります。よろしくおねがいします。

第一話・出会い

出会い

僕が“その子”に初めて出会ったのは肌寒くなり始めた、ある秋の日の事だった。

いや、出会ったというのとは少し違うかも知れない。

その日の放課後、僕は絵画部の絵の課題である「秋の風景」を探して校内をぶらぶら歩いていた。

色々探し回ったが、なかなか自分がスケッチしたいと思える場所がなく、時間も五時を回っていたので少し焦りはじめていた。

と、その時屋上の方から『ギイ、ギイー』という鉄が擦れるような音が聞こえた。

僕はその音が気になり、あまり使つたことのない屋上への階段を登つていった。

ホコリのたまつた階段を登りきると、その音の正体が分かつた。

ふだんは鍵がかかっているはずの、屋上に出るためのドアが半分開いていたのだ。

そのドアが秋の冷たい風に吹かれて『ギイ、ギイー』と、泣いているような少し悲しい音を立てていた。

「あいてる…。屋上…かあ」

僕はそれまで屋上に出たことはなかった。

以前から、屋上からの風景を描きたいと思っていたのだけれど鍵がかかつていて入れなかつた。

後で先生に聞いてみると安全のために出入り禁止にしてある事が分かつた。

だけど、今…この時は違つた。

鍵は開いてる…。そして、ドアのすき間から夕焼けの光がさしていた。

僕は屋上からの風景を描きたいという気持ちがまた高まつていた。そして、深呼吸してゆっくりドアを開いた。

「まぶしつ」

扉を開けて初めに見えたのは強い光だつた。と、言つよりその光で何も見えなかつた。

十秒程して、ようやく目が慣れてきた。

そこに広がつていたのはオレンジ色の世界だつた。

傾きかけの今にもおつこちてしまいそうな太陽が学校の正面にある海と秋の薄い雲を茜色に染めていた。

『ザアーツ、ザアーツ』

僕は見とれていた…。だけど風景に見とれていたわけじゃない。

屋上の隅には一人の女の子がいた…。

紅く染まつていいく海を秋の風に吹かれながら眺めているその娘を、
僕は描きたいと思つてしまつた…。

この風景よりずつと…描きたいと思つてしまつた…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7220c/>

瞳の中の茜空

2010年10月26日14時44分発行